

家計簿記からみた生活の長期変化に関する事例研究（第3報）—教育関係費—  
東京文化短大○内藤道子 梅花短大 藤井千賀 相模女大短大 三宅栄子  
文教大女短大 三東純子 日本女大家政 宮崎礼子

目的：長期にわたって記録されたY家の家計簿記の記録から、子供の教育関係費等、子供・孫への支出の状況を把握し、家計管理者の生活価値観の反映を実証したい。

方法：第1報と同一家計簿記を用いて、教育関係費に焦点をおき子供への支出の推移をみる。子供の高等教育期間における教育関係費を総額および子供別にみて、子供間の差や生活価値観との関わりを明らかにする。

結果：教育関係費の大部分は、家計簿記の日常生活費の計算に含めてあったが、多額あるいは臨時的支出は資産管理の別会計から賄う方式がとられていた。ほぼ隔年に誕生した2男4女に幼少期より稽古事を習わせ、全員に大学教育を受けさせ、一時期には3人の大学教育費を負担するなど、教育を重視した家計運営であった。昭和30年代はまだ男子の教育を優先する時代であったにもかかわらず、当該家計では女子の大学卒業後の勉学費用を負担しており、家計管理者の女性の能力を重視する価値観が反映されていた。